

○ 令和5年度中央卸売市場事業会計予算案

1 市場事業会計の現状及び予算編成について

札幌市中央卸売市場における取扱額は、少子高齢化や消費者ニーズの多様化、市場外流通の増加に伴う取扱量の減少、さらには新型コロナウイルス感染症の影響により減少しており、昨年度は1,410億円程度となっています。

令和5年度は、令和4年度に引き続き、施設の減価償却費が減少することなどから、市場事業会計の収支は黒字となる見込みであるものの、燃料価格高騰の影響により、光熱費が上昇しており、先行きが不透明な状況です。

また、経年劣化が進む立体駐車場や水産棟の設備更新工事により、令和9年度以降、減価償却費の増加が見込まれるため、財務面での持続性の確保は不可欠となっています。

食品流通における情勢の変化に的確に対応し、札幌市中央卸売市場が今後も「持続可能な強い市場」であるための計画として、令和3年度から令和12年度の10年間で計画期間とした「第2次札幌市中央卸売市場経営活性化プロジェクト」を令和3年3月に策定し、令和5年度は、計画期間の3年目となります。

令和5年度予算は、本プロジェクトで掲げた取組を着実に実施するための予算編成を行っています。

2 令和5年度市場事業会計予算案の概要

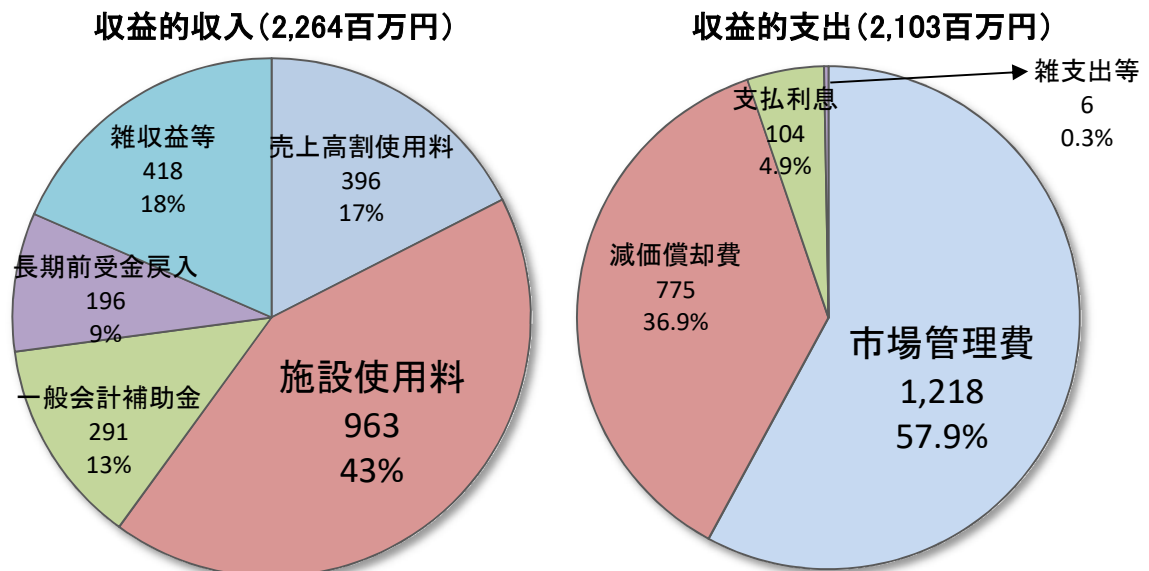
令和5年度市場事業会計予算案の主なポイントは、次のとおりです。

(1) 市場整備

電力設備監視装置などの施設に係る更新を行います。

(2) 収益的収入及び支出の状況

令和5年度予算案における収益的収入及び支出の状況は、下の円グラフのとおりですが、企業債利息や減価償却費の減などにより、161百万円の黒字を見込んでいます。



注:円グラフの金額には、消費税及び地方消費税を含んでおります。(単位:百万円)